

こども若者★いけんぱらす

これまでの活動について

こどもまんなか
こども家庭庁

これまでに実施したいけんひろばについて

これまでに実施したいけんひろば(概要)

- ・ テーマ数:12テーマ
- ・ 意見聴取人数:1,125人(延べ人数、アンケート回答件数含む)

●こどもの居場所づくりに関する指針に向けた意見聴取

担当省庁	手法	参加人数	年代	ファシリテーター	開催日	時間
こども家庭庁	対面	23人	全世代	10名	7月31日	1時間

●若者と食の今後について考える！

担当省庁	手法	参加人数	年代	ファシリテーター	開催日	時間
農林水産省	対面	12人	中学生～高校生	4名	8月2日	2時間
	オンライン1	15人		3名	8月3日	2時間
	オンライン2	10人		3名		2時間

●新しくなった児童福祉法

担当省庁	手法	回答件数	年代	ファシリテーター	開催日	時間
こども家庭庁	アンケート	96件	小学4年生～高校生	—	7月24日～8月6日	—

●幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン(仮称)

担当省庁	手法	回答件数	年代	ファシリテーター	開催日	時間
こども家庭庁	オンライン	202件	全世代	—	8月1日～8月15日	—

これまでに実施したいけんひろばについて

●農林水産業・行政に関する効果的な消費者等への情報発信について(農林水産省に行ってみよう!)

担当省庁	手法	参加人数	年代	ファシリテーター	開催日	時間
農林水産省	対面	17名	中学生～高校生	3名	8月24日	2時間

●いじめや不登校など学校に関する悩み事について

担当省庁	手法	回答件数	年代	ファシリテーター	開催日	時間
こども家庭庁/ 文部科学省	アンケート	131件	小学生～高校生	—	8月28日～9月15日	—

●生きづらさ、自殺したいという気持ちを抱える人に必要な支援について

担当省庁	手法	参加人数	年代	ファシリテーター	開催日	時間
こども家庭庁	対面	10名	高校生以上	3名	9月23日	2時間

●こども家庭庁概算要求について

担当省庁	手法	参加人数	年代	ファシリテーター	開催日	時間
こども家庭庁	オンライン	24名	全世代	5名	9月22日	2時間

●こども向けホームページについて

担当省庁	手法	参加人数	年代	ファシリテーター	開催日	時間
こども家庭庁	対面	16名	小学生～中学生	3名	10月9日	2時間

これまでに実施したいけんひろばについて

●食育について

担当省庁	手法	参加人数	年代	ファシリテーター	開催日	時間
農林水産省	対面	22人	小学5年生～高校生	4名	10月14日	2時間
	アンケート	81件		—	9月15日～29日	—

●こども大綱について(「こども大綱」「こどもまんなか社会」をいっしょに考えよう)

担当省庁	手法	参加人数	年代	ファシリテーター	開催日	時間
こども家庭庁	対面	26人	全世代	6名	10月21日	2時間
	オンライン	25人		6名	10月21日	2時間
	チャット	34人		6名	10月20日～21日 10月22日～23日	2日間 ×2回
	アンケート	133件		—	10月3日～19日	—
	出向く	9人	児童養護施設			各1.5～ 2時間
		29人	ひとり親家庭のこども(オンライン)			
		一人	障害児支援施設(今後実施)			
		一人	児童館(今後実施)			

※チャットのみLINEオープンチャットの対象年齢が13歳以上のため中学生以上

●こども・若者の海に対する意識について

担当省庁	手法	回答件数	年代	ファシリテーター	開催日	時間
国土交通省	アンケート	210件	小学生～高校生	—	9月15日～10月13日	—

※10月25日現在

いけんひろば実施時の主な流れと留意点

意見聴取のサイクル

いけんひろばの流れ

実施の際の留意点・工夫

意見を聴く前

メンバーへの募集

参加者決定

事前説明(参考1)

- ・テーマについての事前説明会を行う。
- ・当日の質問項目を事前説明会のときに提供することで、事前に意見を形成する時間を設ける。
- ・事前説明資料は対象年齢にあわせて作成。特に小学生低学年から参加するいけんひろばは、対象年代によって事前説明を分けるなど工夫。(参考1)

意見を聴くとき

いけんひろば(対面)
の流れ例(参考2)

開会

今日の流れや
ルールの説明

自己紹介/アイスブレイク

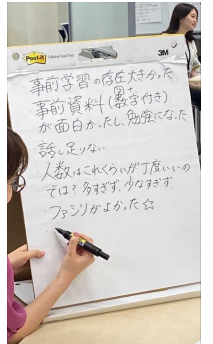
議論&休憩

班内感想/振り返り

事務連絡・閉会

事後アンケート・解散

- 【対面・オンライン】
- ・グランドルールを設定し、参加者で確認をしてから意見交換を行う。(参考3)
 - ・グループは年代の近い3~6人で構成し、意見を言いやすい環境を確保。
 - ・板書を担当する人をおいて、意見をその場で見えるようにする。
 - ・振り返りの時間を設け、他のグループと意見の共有を行う。



- 【チャット】
- ・原則としていつでも意見交換ができるようにしつつ、コアタイムを設定し、集中して議論ができる時間を確保。

- 【アンケート】
- ・小学生でもわかるよう、なるべく簡単なことばでアンケートを作成。

(※) すべての手法で意見の撤回の機会を設けている

政策への反映

いけんのまとめ

報告資料(参考4)

- ・原則発言通りに意見を書き起こし、担当省庁に出た意見をすべて伝える。
- ・対外的にいけんひろばの様子を報告し、社会全体に発信。
- ・出てきた意見がこども若者にとって見やすくなるよう集約するとともに、どの年代、班から発言があったのか、分かるようにした。

結果の
フィードバック

フィードバック資料
(参考5)

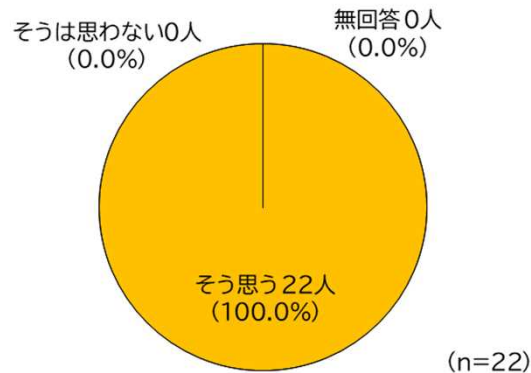
- ・参加したこどもがフィードバック資料を見て、自身の意見や参加したときに発言されていた意見が載っていることが分かるようにした
- ・いけんひろばの時にでたこどもや若者の意見と反映したものだけを載せるのではなく、反映までの過程を入れるようにした。

参加者アンケート結果

- 7/31 こどもの居場所づくりに関する指針に向けた意見聴取(対面)
- 8/2・3 若者と食の今後について考える！
(対面・オンライン)

こどもの居場所づくりに関する指針に向けた意見聴取(対面開催回)

「いけんひろば」に参加してよかったと思いますか？



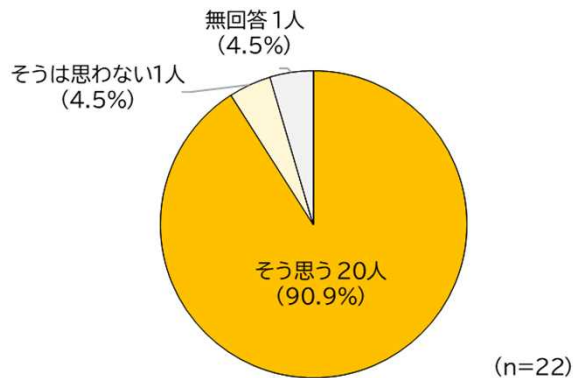
「そう思う」の理由 (自由回答)

行政に直接参加するという経験ができたこと、自分の意見を直接お伝えするという機会をいただき体験できたこと、全てが普段の生活では体験・経験できないことだったから。

同年代の人と話せる機会が貴重であったし、自分の意見を確立している人が多く感心した。

様々な方の意見を聴いたり、自分の考えを深めたりすることができ、とても有意義な時間だったと思うから。

今日の「いけんひろば」では、自分が話したいと思ったことを言えましたか？



話したいと思ったことを言うのがむずかしかった理由や、言い足りなかったこと (自由回答)

話したい人が多かったので、ふだんより聞く(聴く)側にした。

全部言えたと思います。

居場所をみつける人が上手な人と下手な人のちがってなんだろう。



今日の「いけんひろば」の時間の長さや会場の様子などについて、気づいたことや感想があれば教えてください。

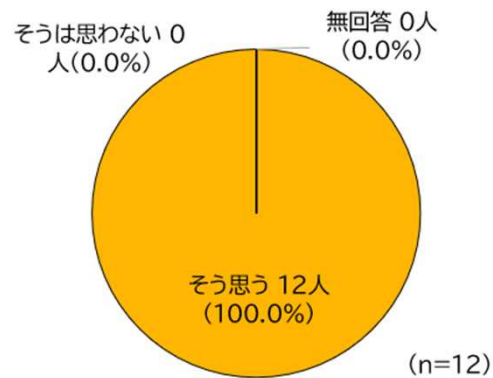
明るい雰囲気では最初は緊張しているところもあったけど、話しやすかった。時間も丁度良かった。

もう少し時間が欲しかった。そのぐらい質・内容の濃い話をしていた。

もう少し意見をみんなで話す時間が欲しかったと思った。とても楽しい雰囲気でも、すぐ居心地がよく、楽しかった。

若者と食の今後について考える！（対面開催回）

「いけんひろば」に参加してよかったと思いますか？



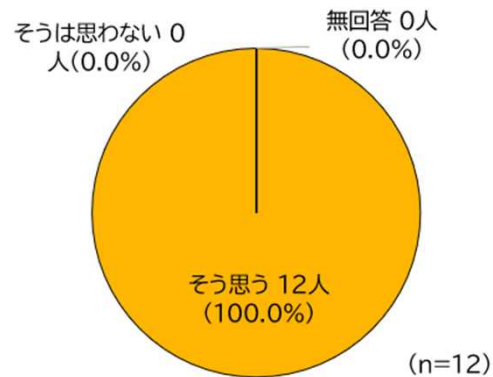
「そう思う」の理由（自由回答）

普段話することがないようなことを話すことができて楽しかったから。また、色々な人の意見を聞いたから。

自分が日頃感じていたことを好きなだけ話すことができてスッキリしたし、それをファシリテーターさんがはじめ皆さんがきいてくれて嬉しかったです。

仲間がいることに気づけたから。社会問題について現実的に考えられて少し希望が見えたから。

今日の「いけんひろば」では、自分が話したいと思ったことを言えましたか？



「そう思う」の理由（自由回答）

ファシリテーターさんがいらっしゃったので、とても話しやすかったです。また人数が多すぎず、少なすぎず丁度良かった。

みんなひていしないできいてくれていたので、とても楽しく感じました。

メンバーが聞いてくれたので意見を言いやすかったです。

今日の「いけんひろば」の時間の長さや会場の様子などについて、気づいたことや感想があれば教えてください。

時間も環境も程良く、過ごしやすかったです。

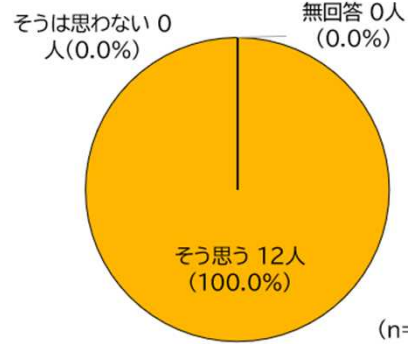
3人でも十分様々なアイデアが出ましたが、もっと大人数でも（発言するのに緊張しない規模で）面白いと思いました。

自分の中の1つの経験にもなって誇りとなりました。せっかく良い機会なので全国様々なところでやってもいいんじゃないか、と思いました！

若者と食の今後について考える！（オンライン開催回）

「いけんひろば」に参加してよかったと思いますか？

オンライン①



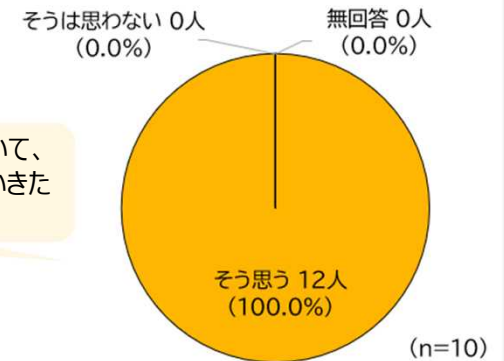
「そう思う」の理由（自由回答）

みんなの農業に対する気持ちを聞けて、学びが深められたから。

今までは、知った気でいた食と環境のことなどについて、ほかの方の意見を聞き、これからはより深く知っていきたいと思うことができました。

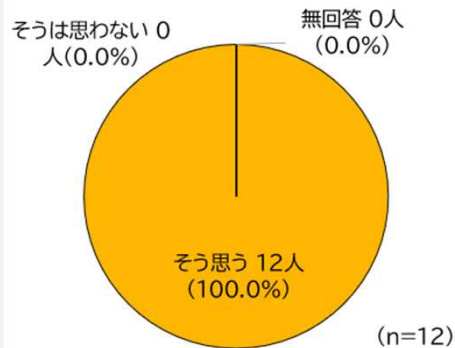
同年代で農業などの話題に真面目に話し合う機会には中々無いので、まずは自分の興味のある分野を深く話せて楽しかった。

オンライン②



今日の「いけんひろば」では、自分が話したいと思ったことを言えましたか？

オンライン①

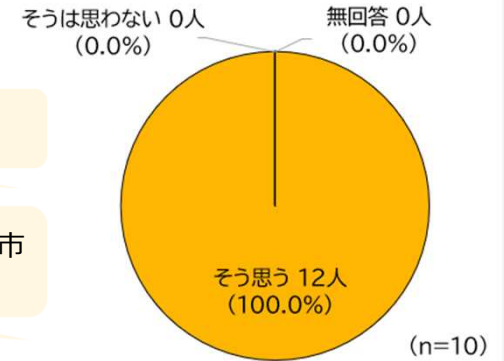


「そう思う」の理由（自由回答）

農業に小さな区画だけ畑を貸し出す制度があれば面白いと思った。

話したいと思ったことは言えました。言い足りなかったこととしては、都市農業でビルの屋上を使ったらいいと思うということです。

オンライン②



今日の「いけんひろば」の時間の長さや会場の様子などについて、気づいたことや感想があれば教えてください。

オンライン①

時間もちょうど良かったし、スタッフの方も優しくしたのでとても良かったです。

マイクをミュートにしているため会話するのが少し難しく思いました。対面のようにスムーズに会話できるようになるとより活発に話し合えるように感じました。

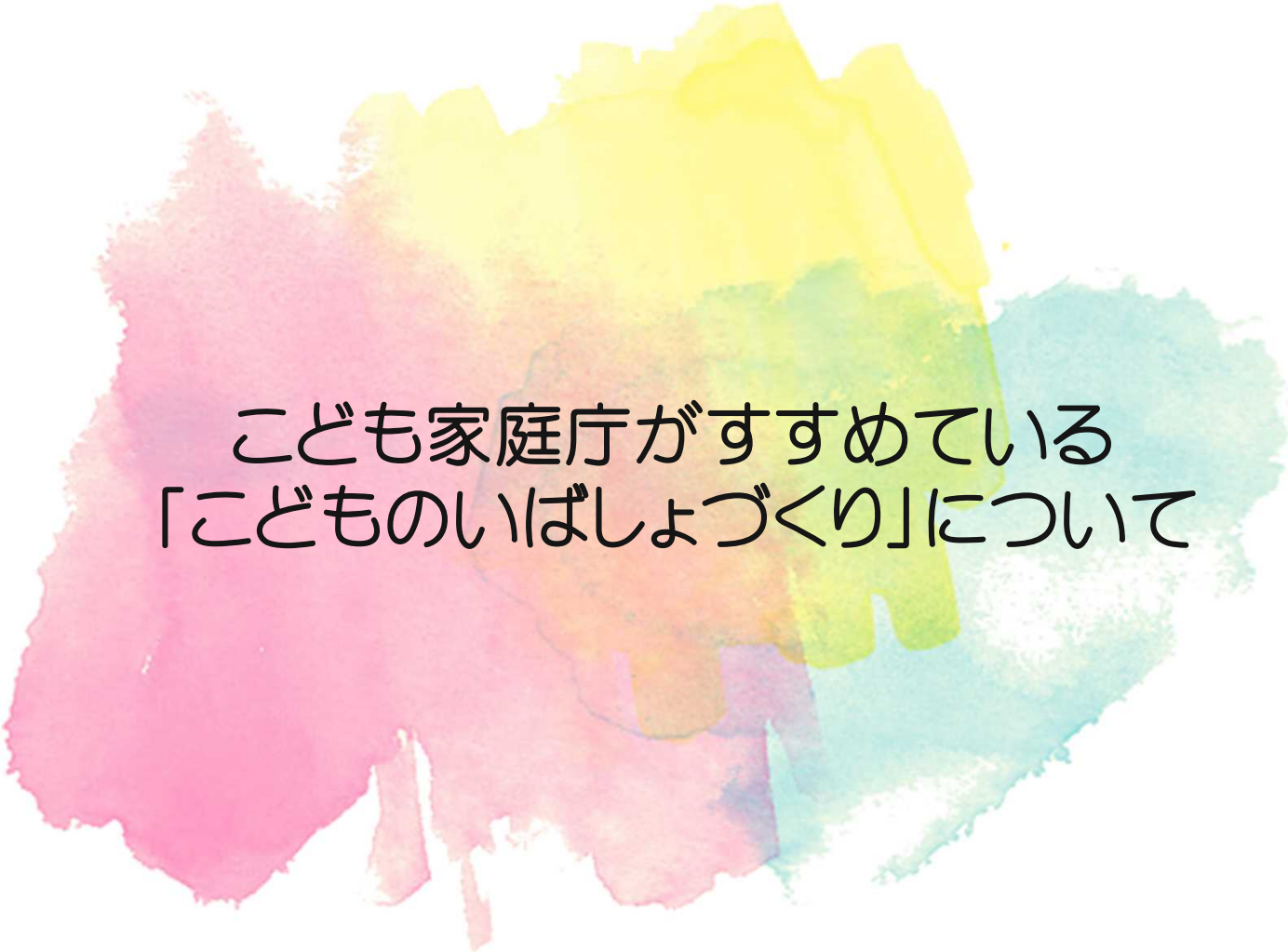
オンライン②

オンラインだから仕方ない部分もあるが、もっと他の子の意見に被せた発言がしやすい雰囲気だと良かった。（自分なるほど思い大きく反応したときに、ファシリテーターさんが話を振ってくれたのが嬉しかった。）

事前説明資料のイメージ

7/31 こどもの居場所づくりに関する指針
に向けた意見聴取(対面)

9. テーマせつめい



こども家庭庁がすすめている
「こどものいばしょづくり」について

ことし
今年3月につくった、こどものいばしょについての報告書

ほうこくしょ

こどもまんなか
こども家庭庁

こどもまんなか
こども家庭庁

*こども家庭庁は令和5年4月1日の設立です。

わかもの いばしょ
こども・若者の居場所づくりにかんする
わかもの む ほうこくしょ
こども・若者向け報告書
れいわ ねん がつ
令和5年3月

はじめに

わかもの
こども・若者のみなさんが、
じぶん しあわ おお いばしょ
自分らしく幸せにすごせる多くの居場所を
も
持つことができるために、
わかもの いばしょ
こども・若者の居場所づくりにかかわる
ちようき
調査をしました。

いま いばしょ
今、居場所となっているところは、
ば
どんな場なのか
かた
どんなすごし方がされているのか
しら
などを調べることで、
わかもの いばしょ
こども・若者の居場所づくりにおいて
たいせつ
大切にしたいことをまとめました。

わかもの いばしょ
こども・若者の居場所づくりにおいて

たいせつ してん
大切にしたい視点

だいじ
“いちばん大事にしたいことは**あなた**がそこに居たいと感じるか”
い かん



居たい

- 居ることの意味を問われないこと
- しんらいできる人、味方になってくれる人がいること
- すごし方をえらべること
- ありのまま、素のままですいられること
- だれかとつながれること
- 気の合う人がいること
- 安心・安全な場であること
- くつろげるかんきょうが整っていること
- 居ただけ居られること
- 助けてほしいときに、助けてくれる人がいること
- だれかとコミュニケーションできること
- 話をきいてくれること
- べつの目的をもった人がいても、同じ空間にいられること
- 一人で居ても気にならないこと

行きたい

- 自分を受け入れてくれるだれかがいること
- 身近にあること
- 気軽に行ける、一人でも行けること
- お金がかからずに行けること
- だれでも行けること
- 行くきっかけがあること
- 自分と同じきょうぐうや立場の人がいること
- いつでも行けること

やってみたい

- いろんな人と出会えること
- すきなこと、やりたいことができること
- 自分の意見を言える、きいてもらえること
- いっしょに学ぶ人、学びをサポートしてくれる人がいること
- いろんな機会があること
- 未来や進路を考えるきっかけがあること
- あこがれをいただける人がいること
- 新しいことを学べること
- 自分のやくわりがあること

こどもの居場所づくりに関する指針（仮称）策定に向けて

● 調査研究の趣旨・目的

こども政策の新たな推進体制に関する基本方針では、「全てのこどもが、安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、様々な学びや、社会で生き抜く力を得るための糧となる多様な体験活動や外遊びの機会に接することができ、自己肯定感や自己有用感を高め、幸せな状態（Well-being）で成長し、社会で活躍していけるようにすることが重要である。」ことを、今後のこども政策の基本理念としている。こども家庭庁では、この理念に基づき、こども・若者が安心して過ごすことができる場の整備に関する事務を所掌するとともに、「こどもの居場所づくりに関する指針（仮称）」を閣議決定し、これに基づいて強力で推進することとしている。

5月17日(水)	【第1回】 今後の部会の進め方について（スケジュール、関係団体ヒアリング）
5月31日(水)	【第2回】 委員ヒアリング
6月13日(火)	【第3回】 関係団体ヒアリング①
7月14日(金)	【第4回】 関係団体ヒアリング②
7月31日(月)	【第5回】 こどもヒアリング
8月9日(水)	【第6回】 こどもの居場所づくりに関する指針（仮称）の論点提示
9月 く	議論の状況をみながら、部会のスケジュールを調整する
12月	こどもの居場所づくりに関する指針（仮称）を年内に閣議決定（予定）

1 あなたが思ういばしよについて

- あなたにとっていばしよと感^{かん}じ^ばる場や人など、ありますか？
- そのいばしよでは、どんなことをしてすごしていますか？
- そのいばしよにいと、ど^{きも}んな気持^{きも}ちになりますか？
- そのいばしよをとおして、自^{えいきょう}分にど^{えいきょう}んな影^{えいきょう}響^{えいきょう}（変^えわ^わったこと）などはありますか？
- じぶんのいばしよがないと、感^{かん}じ^ばるときはありますか？ ど^きんなときですか？
- 今^{いま}まであ^あったじぶんのいばしよがなくな^なったときなど、ありますか？

など

2 あなたの意見と、いばしよについて

- そのいばしよで、じぶ^{いけん}んの意^{いけん}見^{いけん}をきいてもらえてると感^{かん}じ^ばるときはありますか？
- それは、ど^{ばめん}んな場^{ばめん}面^{めん}ですか？
- じぶ^{いけん}んの意^{いけん}見^{いけん}をきいてもらえていると、ど^{きも}んな気持^{きも}ちになりますか？
(じぶんにど^{えいきょう}んな影^{えいきょう}響^{えいきょう}がありますか？)

など

3 いばしよへの行きやすさ

- 住^すんでいる地^ち域^{いき}で、行^いって^くみ^こたいけれど、行^いけて^くないいばしよはありますか？
- ど^りんな理^り由^ゆで、行^いけて^くないのかおしえてください。

など



しつもん の じかん

いけんひろば当日のスケジュール例

いけんひろば当日のスケジュール例

13 : 50

集合

- みなさん指定された時間に集合してください。

14 : 00

開会

- 冒頭に関係者が挨拶を行います。

今日の流れや
ルールの説明

- 全体で今日の流れやルールについて確認します。

14 : 10

自己紹介
アイスブレイク

- 班の中でお互いに自己紹介した後、ちょっとしたゲームやクイズなどをそれぞれの班でやります。

14 : 20

議論 & 休憩

- ファシリテーター（司会の人）がいろんな質問をするので、言える範囲で意見を言ってください。
- ファシリテーターが、班ごとに休憩の時間を連絡します。

15 : 40

班内感想
振り返り

- 班ごとに今の気持ちや今日の感想を話しましょう。
- その後、各班から一言ずつ振り返りの言葉を全体に共有してもらいます。

15 : 55

事務連絡・閉会

- 交通費等の手続きや、今後の予定などの連絡事項をお知らせします。

16 : 00

解散

- 最後にアンケートをお配りします。
- アンケートに回答された方から順次解散となります。

いけんひろばのグランドルール

いけんひろばでのルール

☆ みんなが安心して参加するために ☆

- ◆ 年れいに関係なく、だれもが等(ひと)しく話し合いに参加します。一人ひとりの考えを大切にします。否定したり、さえぎったりしないようにしよう。
- ◆ 考えがまとまっていなくてもだいじょうぶです。感じたこと、ちょっと思いついたこと、いまの気持ちなど、どんなことでもご自由にお話ください。
- ◆ 話したくないこと、個人的なことは、話さなくてだいじょうぶ。
- ◆ いちど言ったことをなしにして、他のことを言ってもOKです。
- ◆ 今日聞いたこと、だれが何を話したかは、ほかの人に言いません。
- ◆ みんなが話せるように、協力しよう。

こまったことがあったら、
スタッフに教えてください

いけんひろばのルール

☆ オンラインの参加ルールについて ☆

- ◆ 全体ルーム・班別ルームでの共通ルール
 - ✓ 基本的に発言する時以外は、ミュートをお願いします。
- ◆ 全体ルームでの発言について
 - ✓ 全体ルームで発言したいときは、まず挙手ボタンを押してください。
 - ✓ 司会の方に指名されてから、ミュートを解除してお話してください。
 - ✓ 発言が終わったら、ミュートに戻してください。
- ◆ 班別ルームでの発言について
 - ✓ 班別ルームで発言したいときは、ミュートを解除して、お名前を名乗ってからお話してください。
 - ✓ 発言が終わったら、ミュートに戻してください。

何か気になることがあったら、
スタッフに教えてください

いけんひろばのルール

☆ SNSなどの投稿(とうこう)について ☆

- ◆ いけんひろばに参加していることを投稿したり、自分だけが写っている写真の投稿はOKです！
- ◆ 他の人が写っている写真は、写真に写っている人からいいよと言われた写真だけを使ってください。
- ◆ だれが何を話したかは、ほかの人(ともだち・先生・家族など)に言いません。
※いけんひろばに参加してくれた人だけが知っていることもあるので、気を付けてください。

何か気になることがあったら、
スタッフに教えてください

9. みなさんの意見について

- みなさんの意見は、こどもホームページをより良くするために活かすとともに、
- 「いけんのまとめ」としてホームページなどに掲載します。
- その時には、だれが言った意見なのかがわからないようにします。
- ホームページなどに掲載する内容は、事前にみなさんに確認していただきます。

- ◆ いけんひろばの中で言ったことは、撤回・修正をすることができます。後日、「いけんのまとめ」案を送りますので、その時に教えてください。
- ◆ また、いけんひろばの中では言えなかったけれど、どうしても伝えたいこと(いけん)があれば、事後アンケート内でお伝えください。
- ◆ もし、いけんひろばの時に、いやだなと感じたことなどがあれば、kodomo_iken@cfa.go.jpのメールアドレスにメールを送ってください。
- ◆ いけんひろば当日から1～2週間以内をめどに、出てきたいけんのまとめをおくります。いけんのまとめが届いたら、かくにんをしてください。

報告資料のイメージ

7/31 こどもの居場所づくりに関する指針
に向けた意見聴取(対面)

2023/07/31開催 いけんひろば
～あなたが思う「居場所」は？～

報告資料

開催概要

テーマ	あなたが思う「居場所」は？ （「こども家庭審議会こどもの居場所部会」のなかで「こども・若者からのヒアリング」として開催）
担当省庁	こども家庭庁
開催日時	令和5年7月31日（月） 15:20～17:30ごろ
開催場所	東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング21階、22階（こども家庭庁内会議室）
参加対象者	ぶらすメンバー全体
参加人数／グループ数	23名／5グループ
主なヒアリング内容	<ul style="list-style-type: none"> • 自分にとって居場所だと感じる場などがあります（います）か？ また、それはどんな場ですか？ • その居場所では、どんな気持ち（感情）になりますか？ • その居場所に対して、もっとこうであってほしいなどありますか？ など

目次

- 居場所だと感じるもの・感じないもの①家・学校・SNS・課外活動
- 居場所だと感じるもの・感じないもの②その他
- 居場所と感じるようになった過程・利用するようになったきっかけ
- 「居場所」がない、なくなったと思うとき
- 「居場所」であるために大切なこと①目的・自分の状態
- 「居場所」であるために大切なこと②どんな人がいる場所か
- 「居場所」をより心地の良いものにするために求めること
- 「居場所」を利用しやすくするために求めること



資料についての補足

各意見について、カッコ書きで該当の意見がでていたグループの構成年代を掲載しています。

本いけんひろばでは参加者を以下の5つのグループに分け、意見交換を行いました。

- Aグループ：小学1年生～小学6年生／6人
- Bグループ：中学3年生～高校2年生／4人
- Cグループ：小学6年生～高校1年生／4人
- Dグループ：高校2年生～大学2年生／5人
- Eグループ：大学4年生～社会人／4人

居場所だと感じるひとからのコメント

居場所だと感じないひとからのコメント

<ul style="list-style-type: none"> 家族との空間だから本音を出せるところだと思っている。(中学生) 一人になれる時間があるのが家だから、家にはやすいという人は多いだろうと思う。(小学生～高校生) 家族とは生まれたときから一緒に、家は比較的長い時間を過ごすから。(小学生～高校生) 	<p>家 (家族)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 親が仕事でイライラしていると、家にいると私にイライラが刺さってくるから、そういうときはいづらくなる。(小学生～高校生) 一般的に家や学校は「居場所」とされているが、虐待やいじめを受けている人たちにとっては「居場所」ではなくなる。(高校生・大学生)
<ul style="list-style-type: none"> 学校で友達と遊んだりしているときや、話したりしているときが好き。(小学生) 部活の友達やクラスメイト、先輩・後輩・先生と話すのが好きだから。(中学生) 学校の先生・カウンセリングの先生には秘密が言いやすい。(小学生) 	<p>学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先生の中にも合う先生、合わない先生がいる。(小学生) 苦手な人が同じクラスにいると「居場所」だと感じなかった。(中学生) 学校だと先生とか友達に気を使わないといけないから、家よりは気持ちがリラックスしていない。(小学生～高校生) 学校だと、私と同じアニメやゲームが趣味の子は少数派だった。(大学生・社会人)
<ul style="list-style-type: none"> 自分と近い趣味の子と会う場はSNSがほとんど。学校だと、私と同じアニメやゲームが趣味の子は少数派だった。同じ趣味の子とは話が合うため、安心感があり、「居場所」になる。(大学生・社会人) SNSは、複数アカウントを使い分けることができる。見ないという選択肢もふくめて、場所の選択肢がいろいろあるのが強みだと思う。(大学生・社会人) 	<p>S N S</p>	<ul style="list-style-type: none"> SNSは匿名だから、言えないことも言えてしまう。(小学生～高校生) 知らない人からメッセージがきたりすると怖い。楽しいところもあるけど反面は悪いところがある。そこはちゃんとわかって使わないといけないと思う。(小学生～高校生) 直接悪口を言われるより、LINEで悪口を言われたほうが何倍も傷つくという話を学校で聞いたりして、それならあまりSNSは使わないほうがいいのかと思って、自分もあまり最近やらなくなってきた。(小学生～高校生)
<ul style="list-style-type: none"> 学校でも家でもない外部の大人、他校の中学生と話したりするので、上下関係などあまり気にしないで自分の意見を言いやすい空間だと思う。(中学生) 課外活動だと、共通の趣味があることや干渉しすぎず手助けしてくれる大人がいることで「居場所」になった。(中学生) 自分と同じような意識を持ったひとが集まるため、年齢に関係なくいいことが言える。(中学生) 	<p>課 外 活 動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課外活動などのプロジェクトだと期限がある。抜けるタイミングを自分で選べず、代替わりという理由で抜ける場合もあるので、こどもが主体的にいるかどうか決められる空間であってほしい。(中学生)

居場所だと感じるひとからのコメント

図書館

- 静かで、本がよめる。(小学生)
- 静かにひとりで過ごすことができる。(小学生～高校生)



公園

- 安心する場所。(小学生)

オンラインの
フリースクール

- 「推し」の話を、顔も名前も知らない人と話すことが楽しい。(小学生)

複合商業施設

- 商業施設の中にある、一人でいくファストフード店などが落ち着く。(中学生)



放課後等デイサービス

- 本音を出せるから。(中学生)

NPO団体が
運営する居場所

- 自分でいつ誰と何をするか自由に決めることができる。(高校生・大学生)
- 通っていた日本の中学校では、自分だけが外国人で他は全員日本人だったので、話をすることや勉強が難しかった。その後通った、NPO団体が運営する場所では、自分と似た人がいて良いと思った。(中学生)



地区で開催
されるお楽しみ会

- 地区に住むこどもがゲームなどを楽しめる機会になっている。(中学生)

飲食店・カフェ

- 最初はバーに入るのに勇気がいったが、数時間話して気が合うなと思った。自分と違う世代の人や社会人の先輩から知らない話を聞ける。(大学生・社会人)
- カフェなど、作業している場所・空間を心地よくて「居場所」だと感じることもある。(大学生・社会人)

居場所だと感じないひとからのコメント

スクールカウンセラー

- 週3日くらい学校にスクールカウンセラーが来る。アドバイスはもらえるが、トラブルの相手に対して直接対応はしてくれなかった。(小学生)



公民館

- こどもや30～40代の人がない。おじいちゃんおばあちゃんのための場所で、行こうと思ったこともない。(小学生～高校生)
- おじいちゃんおばあちゃんが多くて、かわいがってくれる優しい人がいたら、公民館にも行きやすくなるかもしれない。地域のつながりが薄いからそういう人がいない。(小学生～高校生)

児童館

- 一度友達と近所の児童館みたいな遊ぶところに行って、トランポリンとかしていたけど、あまり感情が動かなかった感じ。児童館は小学生が行くところみたいな感じがする。(小学生～高校生)

居場所と感ずるようになった過程・利用するようになったきっかけ

話すことができるイベント

自分から話しかけるのは緊張するので、話しかけてもらえるイベントなど、話すきっかけになるイベントがあったら嬉しい。(小学生)

リコメンド機能

もともと別の内容を調べていて、たまたま「あなたへのおすすめ」などでリコメンドされた場所に行く場合もある。(高校生・大学生)

人づての紹介

人づてで「居場所」にたどり着いた。中学生の頃に先生側からいじめられていた時、放課後遊びのボランティアの人に中高生の「居場所」の存在を教えてもらった。(高校生・大学生)

SNSを通じた関係構築

SNSでいまでも仲良しで旅行したりお家に泊まりにいたりする子がいる。最初に会ったときはお互い緊張して、淡々と話しているだけだったけど、何回か会ううちに、SNSでも書いていないパーソナルなことを話して「SNSのフォロワー」から「友達」に切り替わった。同じものが好きだと分かっているから怖くない。(大学生・社会人)

施設での出会い

いろいろな生い立ちがあって今は親と離れて暮らしているが、社会的養護の子たちと施設の中で出会い、その中で仲良くなり、そういう子たちとご飯いたり、遊んだり、自分のことを話すようになると、自分はひとりじゃないんだと思ひ、その空間が「居場所」になる。(大学生・社会人)

インターネットでの検索

自分で「こういうところに行きたい」という意識をもって、インターネットを活用して「居場所」を探せたらいいと思う。(高校生・大学生)



「居場所」がない、なくなったと思うとき

学校と家以外の居場所の必要性

「居場所」が一つしかない自分はどうしてよいかわからなくなる。家族に本音が話せない人もいるので、学校と家以外の第3の場所がなくなり、気持ちが落ちてしまう子が多いと思う。(中高生)

恒常的な存在ではない

自分の知らない情報で話が盛り上がっているときは自分の存在意義を見出せず「居場所」ではないと感じるため、恒常的に存在するわけではない。(高校生・大学生)

新しい学校への入学

新しい学校に通うことになったとき、これまで築いてきた関係が途切れて「居場所」がなくなったと感じた。また、新しい学校では既存のコミュニティに自分から入っていく必要があり難しいと感じている。(高校生・大学生)

人の目を気にしてしまう

「居場所」といわれる場所にいったとき、よくきている子たちがわーっと話していると、疎外感や寂しさを感じ、自分のことをどこまで開示していいのかわからなくなる。人の目を気にし始めちゃうと「居場所」じゃない。(大学生・社会人)

学校のクラスに苦手な人がいる

苦手な人が学校で同じクラスにいと「居場所」だと感じなかった。(中高生)

他の人にどう思われているかを考えてしまう

自分が他人にどう思われているかと考えているときはまだ「居場所」になっていないと思う。自分の発言がどう思われるか心配することなく打ち解けられている状態に自分で作り上げていくことが必要。(高校生・大学生)

居場所に行く目的

話したり集まったりすること以外の目的がある方がよい。目的が何個かあれば、一つの目的が実現できていなくても、それ以外の目的が達成できていることで「居場所」としてあり続けられる。（高校生・大学生）



自分自身の気持ち・存在意義

自分の存在意義を自分の中か他人の中に見いだせる場所。自分の中というのは、やっていて楽しかったり、勉強になったりするなどであり、他人の中というのは、自分がいることで他人が楽しんでくれたり、他人の仕事に自分が必要と感ずることができたりすること。（高校生・大学生）

「自分」として見られているか、「大勢の中のひとり」として見られているか、によって「居場所」かどうかが変わる。前者のほうが「居場所」だと感じる。（大学生・社会人）

安心したり、わくわくしたり、もっとこうしたいという気持ちを感じられたりする場所。（大学生・社会人）



選択ができること

「居場所」が一か所しかないところ「居場所」と感じなくなった時、行き場を失ってしまうので、逃げ道として居心地の良いと感じる場所は何か所があった方がよいと思う。（高校生・大学生）

居心地がいいな、と感じる場所は日によってちがう。ひといるのが心地よいときと、一人でいたいときがある。自分で選べて、その場所に行けると思える場所がもっと増えたらいいと思う。選択肢が多いほうが、ぱっと思い浮かびやすい。（大学生・社会人）



コミュニケーションのありかた

友達に相談をして「そうなんだ」と受け止めてくれたとき。(小学生)



何でも肯定してくれるAIがある。承認されたという気持ちがある一方で人にははなせないこともAIに対しては話せる。(小学生)

自分の好きなことを否定されないと話しやすい。(中高生)

バーでは、意見が対立したとしても、それはそれとしておきつつ、意見を言い合える関係がある。(大学生・社会人)

長く一緒にいる人や自分のことをわかっていてくれる人が、自分に話しかけてくれたり、話を聞いてくれたりする場所は「居場所」だと感じる。(中高生)



年代

ボランティア先は私の年代の人はあまりなくて、大学生が多い。考えがすごく大人で、余裕がある感じ。高校生だと自分の話を聞いてほしいというのが多いけど、大学生だと私の話を聞いてくれたりするのがいい。(中高生)

同年代の人と話す機会がある場所がいい。年上の人と話すのも楽しいが、同年代だからこそ話せることがあるし、流行っていることも年代によって違う。(小学生～高校生)

同年代が苦手な小さい子どもか自分よりも少し年上の20～25歳くらいの若い大人がいるところが好き。(高校生・大学生)



自分との関係性



自分を知っている人だと逆に話しづらいこともある。同年代の人だけでなく、幅広い年代の人と話せる機会があるといいかなと思った。(小学生～高校生)

学校だと自分のキャラが確立しているから、別の自分を出せる機会があるとよい。(小学生～高校生)

周りの人間と適度に距離を置けることも必要だと思う。(高校生・大学生)



居場所にいるひと（大人・スタッフ）

部屋にスタッフがいて見守ってくれるといい。
こどもだけでは解決できないトラブルがあるときに助けてほしい。（小学生）

優しい人、良く意見をきいてくれる人、ダメなことはだめとってくれる人であれば大人がいてもいい。（小学生）

方向性を決めつけない大人が良い。大人の経験論が大事な時もあるが、こどもの未来の方向性はこどもの主体性に任せてほしい。こどもがやりたいことを尊重してくれる大人が良い。（中学生）



危ないことが起きたときに止めてくれる役割を担う大人は必要なものの、大人があまり干渉しないほうが良いと思う。（高校生・大学生）

大人はいるけど、主に見守りとして何かあった時に助けるくらいの干渉しすぎない距離感が良い。（中学生）

専門的な知識を教えてくれたりアドバイスをしてくれたりする人がいてくれると嬉しい。（小学生）

居場所にいるひと（こども・利用者）

どの学年の人もいれる場所だと、低学年の子たちが騒がしく宿題や勉強に集中できないので、同学年どうして集まれる場所があったら嬉しい。（小学生）

親と一緒にだと「早く帰るよ」と言われて嫌な気持ちになるから、一人で行って一人で過ごせる場所がほしい。（小学生）

親と話す内容と友達と話す内容は違うから、それを親に知られたくない。（小学生）

こどもだけで話せる場所が欲しい。（小学生）



居場所のルール・雰囲気

静かに過ごす場所と、ワイワイ過ごす場所を選べるといい。（小学生～高校生）



いじめが無い場所がいい。ルールを守れない人が一人いると「あの人ルールを破っているなら自分も」という風になって、悪い循環が起きてしまう。（小学生）

一人になって自分の気持ちを考えたりして落ち着いたり、自分でコントロールできるようになる場所があればいいと思う。（中学生）

最近は屋外以外では私語禁止が多いので、もう少しこどものための自由にできる場所があっても良いと思う。（中学生）

ルール

学校のルールで「校区外に一人で行ってはいけない」というものがあるため、**校区外だとこどもだけで行きづらい**。(小学生)



広報・宣伝

一歩の勇気を踏み出そうというとき、今までになかったものが突然現れると「怖い」「これでいいのかな」という感覚になると思う。**テレビやコマーシャルみたいに、普段生活する中で目につく、聞こえる場所にあれば、抵抗感が薄れていく**のかなと思う。(大学生・社会人)

こども家庭庁が**電車広告**などで「こんな「居場所」があるよ」と周知してくれるとよいと思う。(高校生・大学生)



夏休み中は公民館で勉強ができたり、こども食堂があったりと思う。しかし**何をしているのか具体的にわからず、最初の一步が踏み出せない**。(中高生)

国が「居場所」をつくる際は、「居場所」があることを周知して**実際の参加レポートを公表するなど広報が重要**だと思った。(中高生)

ロゴマークなど、目に見える視覚情報として、だれでも入っていいことがわかりやすく伝えられるといいなと思う。(大学生・社会人)

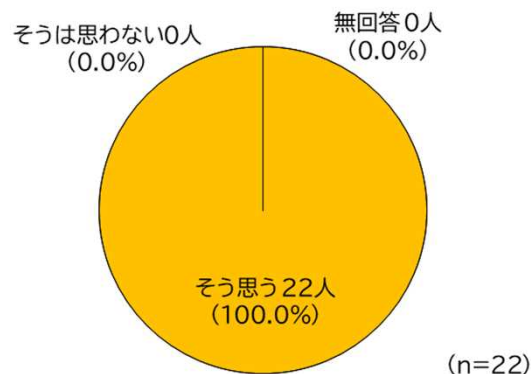


定時高校や、不登校の学生向けに情報を伝えることや、学校のホームルームや家庭科の授業、大学の中などで紹介することを検討してほしい。SNSで広告を流してもよい。手軽に手の届く範囲に広告があると、みんな利用すると思う。(大学生・社会人)

NPO法人などは「居場所」を作っていたとしても、金銭的な理由で発信力が弱く自分たちが見つけづらいと思う。**自分が住んでいる地域等信頼性が高い組織がHPなどで紹介**してくれると行きやすい。(高校生・大学生)

参加者アンケート(一部を抜粋して掲載)

「いけんひろば」に参加してよかったと思いますか？



「そう思う」の理由(自由回答)

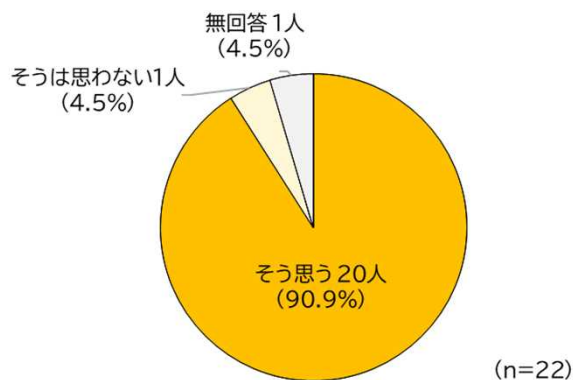
行政に直接参加するという経験ができたこと、自分の意見を直接お伝えするという機会をいただき体験できたこと、全てが普段の生活では体験・経験できないことだったから。



同年代の人と話せる機会が貴重であったし、自分の意見を確立している人が多く感心した。

様々な方の意見を聴いたり、自分の考えを深めたりすることができ、とても有意義な時間だったと思うから。

今日の「いけんひろば」では、自分が話したいと思ったことを言えましたか？



話したいと思ったことを言うのがむずかかった理由や、言い足りなかったこと(自由回答)

話したい人が多かったので、ふだんより聞く(聴く)側にした。

全部言えたと思います。

居場所を見つける人が上手な人と下手な人のちがってなんだろう。



今日の「いけんひろば」の時間の長さや会場の様子などについて、気づいたことや感想があれば教えてください。

明るい雰囲気では最初は緊張しているところもあったけど、話しやすかった。時間も丁度良かった。

もう少し時間が欲しかった。そのぐらい質・内容の濃い話をしていた。

もう少し意見をみんなで話す時間が欲しかったと思った。とても楽しい雰囲気ですごく居心地がよく、楽しかった。

フィードバック資料のイメージ

7/31 こどもの居場所づくりに関する指針
に向けた意見聴取(対面)

いけんひろば
～あなたが思う「居場所」は？～

フィードバック資料

2023年度『こども若者★いけんぷらす』事業

開催概要

テーマ	<p>あなたが思う「居場所」は？ （「こども家庭審議会こどもの居場所部会」のなかで「こども・若者からのヒアリング」 として開催）</p>
担当省庁	<p>こども家庭庁</p>
開催日時	<p>令和5年7月31日（月） 15:20～17:30ごろ</p>
開催場所	<p>東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング21階、22階（こども家庭庁内会議室）</p>
参加対象者	<p>ぷらすメンバー全体（小学生～社会人）</p>
参加人数／グループ数	<p>23名／ 5グループ</p>
主なヒアリング内容	<ul style="list-style-type: none"> • 自分にとって居場所だと感じる場などがあります（います）か？ また、それはどんな場ですか？ • その居場所では、どんな気持ち（感情）になりますか？ • その居場所に対して、もっとこうであってほしいなどありますか？ <p style="text-align: right;">など</p>

目次

- こどもの居場所づくりに関する指針（素案）への反映について
- 【やさしい版】こどもの居場所づくりに関する指針（素案）について
- 第2章1「こどもの居場所とは」への反映
- 第2章2「こどもの居場所の特徴」への反映
- 第3章4「『つなぐ』～こどもが居場所につながる～」への反映
- 第3章5「『みがく』～こどもにとって、よりよい居場所となる～」への反映
- 今回反映されなかった意見について
- 関連リンク集



資料についての補足

各意見について、カッコ書きで該当の意見がでていたグループの構成年代を掲載しています。

本いけんひろばでは参加者を以下の5つのグループに分け、意見交換を行いました。

- Aグループ：小学1年生～小学6年生／6人
- Bグループ：中学3年生～高校2年生／4人
- Cグループ：小学6年生～高校1年生／4人
- Dグループ：高校2年生～大学2年生／5人
- Eグループ：大学4年生～社会人／4人

今回のいけんひろばでいただいた意見は、
こどもの居場所づくりに関する指針（素案）
に反映されました！

※こどもの居場所づくりに関する指針（素案）へのリンクは[こちらをみてください](#)。

『こどもの居場所づくりに関する指針（素案）』とは

- 『こどもの居場所づくりに関する指針（素案）』とは、年末に向けて作られる『こどもの居場所づくりに関する指針』のもとになるものです。
- 『こどもの居場所づくりに関する指針』とは、こども・若者のみなさんにとって、**よりよい居場所が社会の中に広がっていくことを後押しするため**の方針です。
- 5ページ目から8ページ目に『こどもの居場所づくりに関する指針（素案）』についてやさしく説明しているので、一度見てみてください。
- みなさんからいただいた意見は「報告資料」としてもとりまとめています。ぜひこども家庭庁のホームページをご確認ください！（詳細はp.14「関連リンク集」を御覧ください。）



いばしょ 居場所とは？



こどもが過ごす場所・時間、人との関係性すべてが、こども・若者にとって居場所になりえる。また、その場や対象を居場所と感ずるかどうかは、本人が決めることであり、そこに行くかどうか、どう過ごすかなど、こども本人の主体性を大切にする。

いばしょ 居場所づくりとは？



居場所とは、こども本人が決めるものである一方で、居場所づくりとは、第三者（他人）が中心となり居場所をつくることである。そのため、居場所と感ずることと、居場所をつくることには隔たりがある。

いばしょ おも とくちょう 居場所の主な特徴

こじんてき へんか ・個人的であり、変化しやすい

自分にとっての居場所が、ほかの人にとっての居場所ではないこともある。また、昨日居場所だと思っていた場が、今日は居場所だと感ずられないこともある。



りっち ちいきせい えいきょう ・立地や地域性などの影響をうける

お寺や神社が多い地域や、商店街がある地域など、どの地域にあるのかなどによって、影響をうける。

かんけいせい えいきょう ・人との関係性に影響をうける

だれかと一緒にいたかったり、人と距離をとって一人でいたいなど、人との関係性に影響をうける。

だからこそ・・・



こどもの声を聴きながら、
こどもの視点に立った居場所づくりが重要

そのうえで・・・



それぞれのこどもの特性や、求めているものに
応じて、身近に居場所を持つことが大切

こどもの居場所づくりが 目指す理念



すべてのこどもが安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、将来にわたって幸せな状態で成長し、社会で活躍していけるよう、「こどもまんなか」の居場所づくりを実現する。

? なぜ居場所づくりが必要なのか？

居場所がないことは孤独・孤立の問題と深く関係し、こどもが生きていく上で居場所があることは不可欠

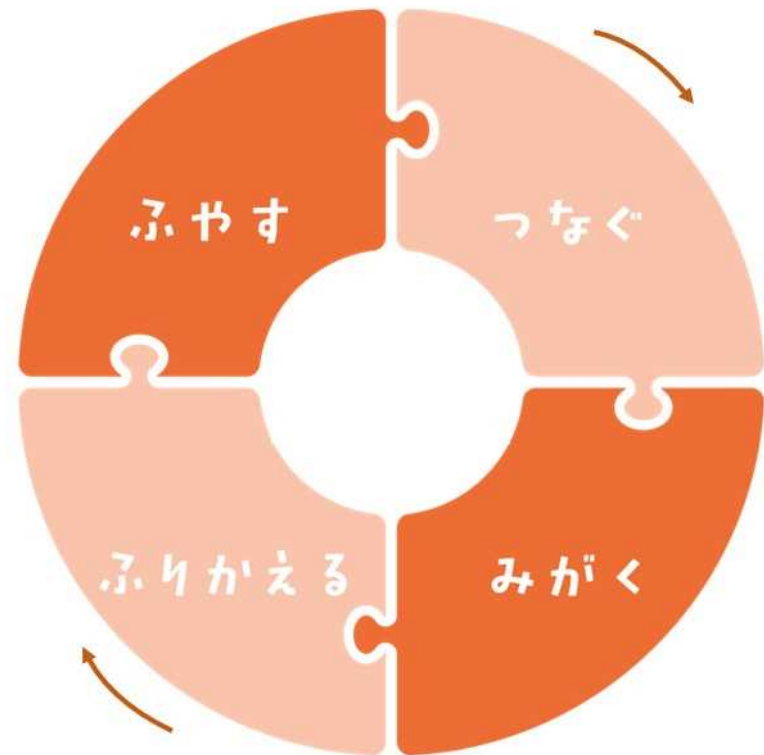
しかしながら、

- ①地域のつながりが薄くなっていて、地域の中でこどもが育ちにくい。
- ②こどもを取り巻く環境の厳しさが増している。
- ③さまざまな価値観が広がってきている。

といった、背景があります。

こどもの居場所づくりを どうすすめるか？

こどもの居場所づくりをすすめるうえでの
4つの基本的な視点

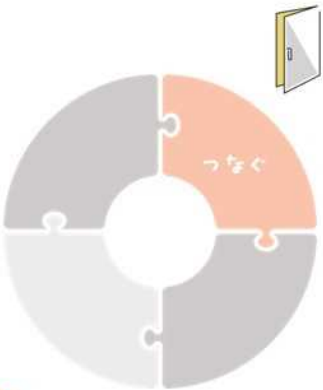


ぐるぐるまわりながら、こどもの居場所づくりを
すすめていくことが大切

いばしょ
こどもの居場所づくりを
どうすすめるのか



- こども・若者が居場所を持っているか、どういった居場所をもとめているのかなどを把握する。
- 児童館や公民館など、すでにある施設を活用して居場所づくりをすすめる。
- 新たに居場所づくりをしたい人を応援する。
- 居場所づくりが続いていくように、支える。
- 災害のときでも、居場所を持てるように、支える

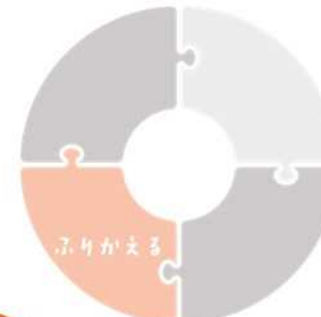


- 居場所に関する情報をわかりやすくまとめて、探しやすくする。
- こどもの興味にそった居場所づくりによって、利用しやすいようにする。
- 自分ではなかなか利用しにくいこどもも、居場所につながるように工夫する。

いばしょ
こどもの居場所づくりを
どうすすめるのか

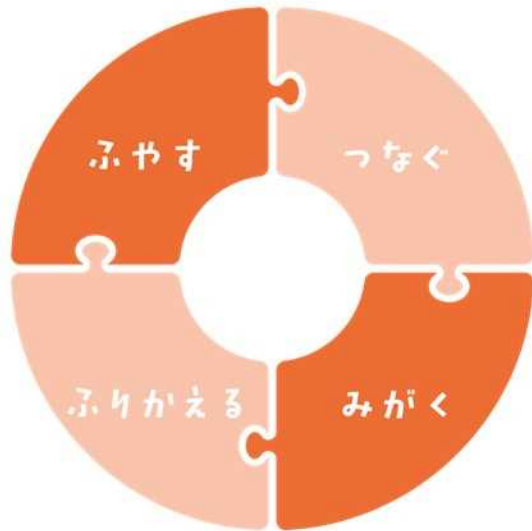


- 心身の安全が確保され、安心してすごせる居場所づくりをすすめる。
- こどもが居場所づくりに参画し、こどもとともに居場所づくりをすすめる。
- どのように過ごすか、だれと過ごすかを意識した居場所づくりをすすめる。
- 居場所同士や、他の施設などと一緒に居場所づくりをすすめる。
- 環境の変化にあわせて、居場所づくりをすすめる。



- 居場所づくりがすすんでいるかを振り返ることは必要だが、どのように振り返るのかについては、これから検討していく。

てん きょうつう
すべての点に共通すること



1 こどもの声を聴き、こどもの視点に立ち、こどもとともに居場所をつくること

2 こどもの権利*を守ること



3 国や役所、市民が一緒に協力して、こどもの居場所づくりをすすめること

*こども・若者(わかもの)の権利(けんり)とは、大事(だいじ)に育(そだ)てられることや、意見(いけん)を言(い)えることなど、こども・若者が幸(しあわ)せに生(い)きるためのけんりのこと。

いばしょ かんけい
こどもの居場所づくりに関係する
やくわり たいせい
ひとの役割と体制



だんたい
団体や
ちいき やくわり
地域の役割

団体は、この方針をふまえて、地域の事情に応じた居場所づくりをすすめる。地域住民は、参加したり、こどもの見守りなどを積極的に行うことを期待する。



がっこう
学校や
さぎょう やくわり
企業の役割

学校は、こどもの居場所としての認識を持ちながら、他の機関と協力して居場所づくりをすすめる。企業は、運営のサポートなど積極的にを行うことを期待する。



かほろじかたい
地方自治体
くに やくわり
や国の役割

市町村は、こどもの居場所づくりを計画的にすすめる。都道府県はその取り組みを支える。こども家庭庁のリーダーシップの下、一体となって居場所づくりをすすめる。

- みなさんからいただいた「居場所だと感じるもの・感じないもの」に関する意見は、素案の第2章1「こどもの居場所とは」に反映されました。
- 第2章1「こどもの居場所とは」の部分には、こどもの居場所とは、どういったもので、何を大切にすることが必要なのかなどについて書かれています。

報告資料 (みなさんの意見)



- こども・若者のみなさんが居場所だと感じるものとして、家や学校、SNSだけでなく、図書館や公園、さらには、飲食店やカフェなどさまざまな場所が居場所になると話がされていた。



意見反映時のポイント

- こども・若者のみなさんが居場所だと感じるものは様々であること

素案 (意見が反映されたもの)

- こども・若者が過ごす場所・時間、人との関係性全てが、こども・若者にとっての居場所になりえる。
すなわち居場所とは、物理的な「場」だけでなく、遊びや体験活動、オンライン空間といった多様な形態をとりうるものである。(P.6)
- その場や対象を居場所と感じるかどうかは、**こども本人が決めること**であり、そこに行くかどうか、どう過ごすか、その場をどのようにしていきたいかなど、こども・若者が自ら決め、行動する姿勢など、**こどもの主体性を大切にすることが求められる**。(P.6)

※ () のページ数は、こども居場所づくりに関する指針(素案)のページ数を表しています。



- みなさんからいただいた「居場所だと感じるもの・感じないもの」、「居場所」がない、なくなったと思うときに関する意見は、素案の第2章2「こどもの居場所の特徴」に反映されました。
- 第2章2「こどもの居場所の特徴」の部分には、居場所とは変化しやすいものであったり、地域性や目的によって変化しうるものであるなどの特徴が書かれており、「居場所」をよりわかりやすくまとめています。

報告資料

(みなさんの意見)

<居場所だと感じるには、そこにいる人との関係性が重要であること>

- 自分が他人にどう思われているかと考えているときはまだ「居場所」になっていないと思う。(高校生・大学生)
- 人の目を気にし始めちゃうと「居場所」じゃない。(大学生・社会人)
- 学校だと先生とか友達に気を使わないといけない。(小学生～高校生)
- 一人になれる時間があるのが家(小学生～高校生)
- 部活の友達やクラスメイト、先輩・後輩・先生と話すのが好き。(中学生)

<居場所だと感じていたものが変化していくことや、人によって居場所の感じ方が異なること>

- 新しい学校に通うことになったとき、これまで築いてきた関係が途切れて「居場所」がなくなったと感じた。(高校生・大学生)
- 一般的に家や学校は「居場所」とされているが、虐待やいじめを受けている人たちにとっては「居場所」ではなくなる。(高校生・大学生)
- 自分の知らない情報で話が盛り上がっているときは自分の存在意義を見出せず「居場所」ではないと感じる。(高校生・大学生)

意見反映時のポイント

- こども・若者のみなさんにとって居場所だと感じるものは人との関係性が重要であること
- 居場所だと感じていたとしても常に居場所だと感じるものでなく、変化しうるものであること

素案

(意見が反映されたもの)



- その場において、他者に受け入れてもらえることや交流ができることなど、人との関係性があることが、当人の居場所と感じることに影響している。一方で、だれとも交流せず、自分ひとりでいられることや他者が関わってこないなど、人との関係性から距離を置いた場だからこそ、居場所と感じることもある。(P.7)
- 昨日まで居場所だと感じていた対象や場が、心理的な変化や人間関係の変化などにより、今日は居場所だと感じられないこともある。さらに、こどもの成長や発達に伴い、同じこどもであっても求める居場所が異なってくる。このように、こどもの居場所は変化しやすいものである。(P.6)
- こどもにとって、学校は単に学ぶだけの場ではなく、安全に安心して過ごしながら、他所と関わりながら育つ、こどもにとって大切な居場所の一つであり、実際に、一日の大半を過ごす場所として、学校は多くのこどもにとっての居場所となっている。(P.7)



- みなさんからいただいた「居場所と感じるようになった過程・利用するようになったきっかけ」、「居場所を利用しやすくするために求めるもの」に関する意見は、素案の第3章4「つなぐ」～子どもが居場所につながる～に反映されました。
- 第3章4「つなぐ」～子どもが居場所につながる～の部分には、居場所づくりによって整備される場が、子ども・若者にとって行きやすく、利用しやすくなるために大切にしたいことが書かれています。

報告資料

(みなさんの意見)

- 自分で「こういうところに行きたい」という意識をもって、インターネットを活用して「居場所」を探せたらよい。(高校生・大学生)
- 自分が住んでいる地域等信頼性が高い組織がHPなどで紹介してくれると行きやすい。(高校生・大学生)
- 実際の参加レポートを公表するなど広報が重要。(中高生)
- たまたま「あなたへのおすすめ」などでリコメンドされた場所に行く場合もある。(高校生・大学生)
- SNSでいまでも仲良しで旅行したりおうちに泊まりにいたりする子がいる。(大学生・社会人)
- 放課後遊びのボランティアの人に中高生の「居場所の」存在を教えてもらった。(高校生・大学生)
- 自分から話しかけるのは緊張するので、話しかけてもらえるイベントなど、話すきっかけになるイベントがあったら嬉しい。(小学生)
- 学校のルールで「校区外に一人で行ってはいけない」というものがあるため、校区外だと子どもだけで行きづらい。(小学生)

意見反映時のポイント

- 子ども・若者のみなさんにとってどういうところに居場所があるかをまずは知ってもらい「行きたい」と思ってもらうことが重要であること
- 利用のきっかけは本人の意思だけでなく、周りのひとや興味のあるものをきっかけとしていること
- 移動のコストがかかることで居場所を利用する障壁になること

素案

(意見が反映されたもの)

- 地域のどこに、どんな種類の場があるかを、地域全体で取り組むことが重要である。多様な子どもの居場所に関する情報をまとめ、マップやポータルサイトなどに可視化し、検索できるようにすることも有効である。特に、その場の様子や過ごし方など、子ども・若者にとってイメージできるような情報の掲載は、「行きたい」と思う動機づけにつながる。(P.14)
- これらの情報は、本人が選びやすいよう情報が整理され、自分のニーズに適した場を探しやすくなるように、子ども・若者と居場所をマッチングしやすくするなどの工夫も必要である。(P.14)
- 子ども・若者の興味や関心、文化に即した居場所は、利用しやすさを高めることにつながる。ゲームやスポーツ、音楽、動画作成など、子ども・若者が興味のあるものがきっかけで利用しはじめる。(P.14)
- 利用のきっかけは本人の意思だけではなく、保護者や友人、学校の教職員や地域の方、相談支援専門員など信頼できる者からのすすめが利用しやすさにつながることもあり、こうしたつなぐ人や機関の役割が重要。(P.15)
- 移動そのものや移動にかかるコストなどが、子ども・若者が場を利用する際の障壁となることがある。近隣の公園に出向いて居場所を開催するなどアウトリーチによる居場所づくりなど移動にかかるコストを低減させる工夫も重要。(P.15)

- みなさんからいただいた「居場所」であるために大切なこと、「居場所」をより心地の良いものにするために求めることに関する意見は、素案の第3章5「みかく」～子どもにとって、よりよい居場所となる～に反映されました。
- 第3章5「みかく」～子どもにとって、よりよい居場所となる～の部分には、その場がその子ども・若者に居場所になっていくためには、安心・安全性、その場での過ごし方、だれがいるのかなど、よりよい居場所づくりのために必要なこと・大切にしたいことが書かれています。

報告資料

(みなさんの意見)

- 逃げ道として居心地の良いと感じる場所は何か所があった方がよいと思う。(高校生・大学生)
- 安心したり、わくわくしたり、もっとこうしたいという気持ちを感じられたりする場所。(大学生・社会人)
- いじめがない場所がいい。(小学生)
- 一人になって自分の気持ちを考えたりして落ち着いたり、自分でコントロールできるようになる場所があればいいと思う。(中高生)
- 優しい人、良く意見をきいてくれる人、ダメなことはだめとってくれる人。(小学生)
- 専門的な知識を教えてくれたり、アドバイスをしてくれたりする人がいてくれると嬉しい。(小学生)
- 高校生だと自分の話をきいてほしいというのが多いけど、大学生だと私の話を聞いてくれたりするのがいい。(中高生)
- 子どもだけでは解決できないトラブルがあるときに助けてほしい。(小学生)

意見反映時のポイント

- 子ども・若者のみなさんにとって、居場所が安心安全な場であることが重要であること
- 大人との関係性が大事であること
- 子ども・若者をいざというときは助ける存在であるべきこと

素案

(意見が反映されたもの)

- 居場所は、子ども・若者にとって安心して過ごすことができ、心身の安全が確保された場である必要がある。子ども・若者が居場所にいることで、大人から搾取されたり、犯罪に巻き込まれるといったことがあってはならない。どのような場所を安心・安全と感じるかは、子ども・若者によって異なりうるが、少なくとも、子ども・若者が不安や恐怖に感じることがないようにすることが必要である。(P.16)
- 「だれと過ごせるか」といったその場にいる人との関係性に注目することも重要である。友人などの横の関係に対して、居場所づくりを担う大人が、自分の話をよく聞いてくれ、受け入れてくれる、一緒に何かに取り組んでくれる、あこがれの対象(ロールモデル)になる等といった斜めの関係であることが、子どもの居場所において重要。(P.17)
- オンラインゲームやSNSなどは、不適切な大人の関わりなどのリスクが強調されがちであるが、子ども・若者をこうしたりスクから守りつつ、その有用性について理解を深めていく必要。(P.18)



今回のいけんひろばでいただいた意見のなかには、残念ながら素案に反映されなかった意見もありました。しかしながら、素案以外のものへの反映も考えていることから、ここでは、以下についてまとめました。

- なぜ素案に反映されなかったのか
- どのような機会に反映することを考えているか

反映されなかった主な意見

<広報・宣伝について>

- テレビやコマーシャルみたいに、普段生活する中で目につく、聞こえる場所にあれば、抵抗感が薄れていくのかなと思う。（大学生・社会人）
- こども家庭庁が電車広告などで「こんな「居場所」があるよ」と周知してくれるとよいと思う。（高校生・大学生）
- ロゴマークなど、目に見える視覚情報として、だれでも入っていいことがわかりやすく伝えられるといいなと思う。（大学生・社会人）



反映されなかった理由や素案以外での反映について

<広報・宣伝について>

広報・宣伝については、多くのひとから、様々なアイデアをいただきました。こどもの居場所づくりに関する指針は、居場所づくりに関する大きな方向性を示すもののため、素案の中では具体的な広報や宣伝方法まで載せることはしませんでした。また、電車広告やコマーシャルで広告することは多くのお金がかかる方法のため、すぐに実行することは難しいと考えて、この点も具体的に書かれていませんが、第3章4の「つなぐ」のパートで、こども・若者やその保護者に広く情報提供がされることが重要であることを書きました。いけんひろばの中では、普段みなさんが接するメディアに関して幅広く意見をもらうことができ、とても参考になりました。今後、指針策定した後の広報や、居場所に関する情報を発信する際に、活かしていきます。

「こども若者★いけんぷらす」についてのホームページ

[「こども若者★いけんぷらす」について | こども家庭庁 \(cfa.go.jp\)](https://cfa.go.jp/ikensa)



「いけんひろば～あなたが思う「居場所」は？～」のホームページ

[いけんひろば ～あなたが思う「居場所」は？～ について | こども家庭庁 \(cfa.go.jp\)](https://cfa.go.jp/ikenhiroba)

「こどもの居場所づくり」についてのホームページ

[こどもの居場所づくり | こども家庭庁 \(cfa.go.jp\)](https://cfa.go.jp/ikodomo)

